

## 謝 辞

このたび、私藤芳が明治大学を退任するにあたり、経営学部経営学論集委員会より、藤芳の「退任記念論文集」の発刊について御執筆を依頼しましたところ、執筆予定者全員の先生が御執筆いただき、しかも書下しの原稿を頂戴し、学者名利につき、これに代えられるものはありません、厚く御礼申し上げます。

それとともに、この記念号の出版にあたって、「経営関係学会トップの経営語録」を作成していただければ、経営学者として、ほんとうに冥土への土産になると、たっぺのお願いをいたしました。編集委員会では、経営学関係学会の長であられる先生方に、次のように御依頼いたしました。「先生御自身の研究のエッセンス、あるいは経営観、現代経営への指針など、何なりとご自由にお書き下さり、各学会のリーダーが語るいわば「学界トップの経営語録」を編集させていただければ、藤芳教授へのこの上ないプレゼントとなるばかりではなく、わが『経営論集』としても無上の光栄と存じ上げます。」

学会の長として、ほんとうに御多用であるにも拘らず、ほとんどの会長さんから、私にとって、経営学部にとって、いや後世の経営学徒に対して、その切口はいろいろであります。経営学の真髄を構築する御言葉をいただいたこと、無上の喜びであります。

2つの学会では、この執筆を御依頼の時期に会長がおかわりになったところがあって、そこでは新旧両学会長よりお言葉をいただくことができましたことに重ねてお礼を申し上げます。

なお不肖私も現在、山城章先生が創設された「日本経営教育学会」の三代目会長をつとめておりますので、まことに僭越とは存じましたが私の「蛻変の経営哲学」をこの語録の仲間に入れていただくことをお許し下さい。

私も古稀を迎えました。いずれ、どこの世界かわかりませんが、未知の世界に旅立たなければなりません。大国生命がかついだ、あの純白の大きな袋に、ここで頂戴した12名の先生方の論文と、20名の学会長の先生方の悟りに近い経営の知恵「経営語録」を詰めて未知の世界に渡り、「経営の教典」を流布することにいたします。学問と人生は、ほんとうに、巡礼の旅であります。

経営教育学会会長・東亜大学副学長

藤 芳 誠 一